Kacotam

Annual Report

2015

Kacotamの取り組み

What- 何の問題に取り組むのか

子どもたちのなかには、経済的理由や家庭環境等自分ではどうしようもない理由ににより、様々な学びの機会が失われている子がいます。経済的困難により高校、大学に進学できない、進路選択の余地がない、部活や習い事をやりたいのに、自分だけあきらめざるを得ないという状況にあります。また、様々な問題を抱えて余裕がなくなってしまった保護者の子どもへの教育に対する無関心や虐待により、家庭での学びが失われ、基礎学力だけではなく、他者に信頼感を得ることや規則正しい生活習慣を身につけること、体験学習等の機会が失われてしまいます。

Why- なぜ解決する必要があるのか

子どもたちが学びの機会を失うことで、将来の様々な困難が醸成されてしまいます。中卒での就職は困難であり、たとえ就職できたとしても学歴によって就ける職業が限られ、非正規雇用が多く、不安定な生活を送る可能性が高くなります。また、子どもたちの「やりたい」、「学びたい」が自分ではどうしようもない理由によって、「我慢」や「あきらめ」に変えられてしまい、そういった経験の積み重ねが「どうせやっても」という最初からあきらめてしまうことにつながり、自己を肯定することができなくなってしまいます。その結果、意欲の低下や不登校、社会とのつながりさえもなくなってしまいます。

How- どのように解決するのか

・様々な学習プログラムの提供
・自分のありのままを受けとめてくれるちょっと年上の大人との出会い

国・数・理・社・英の基礎科目の学びを中心にサポートをします。また様々な分野のことについて、メンバーが話をするKacotime、料理教室、英会話教室を実施しています。一日料理長のような子どもの「やりたい」を実現するサポートもしています。メンバーは子どもたちが良い状況、悪い状況に関わらず、「今」を受けとめ、それを日々積み重ねていくことで、子ども自身がありのままの自分を受けとめられるようにつなげていきます。

Who- 誰にサービスを提供するのか

児童養護施設やファミリーホーム等の社会的養護下の子どもたちや、ひとり親家庭、生活保護世帯等の経済的困窮家庭の子どもたち、学校かつその他教育機関に行くことができない子ども・若者。

2015年度の振り返り

いつもご支援ありがとうございます。2015年度も無事活動を継続し、終えることができました。平成26年8月に子どもの貧困対策大綱が閣議決定され、北海道では『北海道子どもの貧困対策推進計画（素案）』が出されました。そのような行政の動きがあったこともあり、「子どもの貧困」という言葉がメディアで飛び交うようになり、様々なメディアから取材依頼がありました。2015年度は、テレビ6回、ラジオ1回、新聞4回の取材があり、必要としているご家庭から連絡をいただいたり、多くの札幌市の職員、児童養護施設の職員に知っていただけることができました。2015年度から、高橋が常勤職員となり、企業や他団体とのつながりをつくることで、コラボ企画や子どもたちへのキャリア学習、新しい仕組みづくりをし、新たな体験や進路決定のきっかけづくりをしていきました。また、様々な地域の方々から寄付をしていただけるようになり、寄付金が2014年度の約4倍となりました。使途が限られている助成金では賄うことができないパンフレットの印刷代、「やりたいをカタチにする」の個別対応でかかる消耗品、クリスマス会等のイベント経費等を確保することができましたが、人件費を確保することはできませんでした。2016年度は、より多くの地域で学びの場をつくるために、団体の財政基盤を整え、学習支援の標準化、個別対応の充実を図ってまいります。今後とも宜しくお願いします。

奨学金調査チーム立上げ・奨学金説明会・相談会実施

今まで主に中学3年生の子どもたちに奨学金情報を提供していました。ただ、今まではまとまった情報を提供することができず、情報が入ったときにその都度提供していました。そこで、奨学金調査チームを立ち上げ、北海道、全国にどのような奨学金があるのかを調査していき、その中でも給付型奨学金でかつ北海道でも使えるものを一覧にまとめて、『奨学金リサーチブック』をつくりました。奨学金リサーチブックを中高生に配布するとともに、保護者向けに、奨学金説明会・相談会を実施しました。

学ボラ標準化プロジェクトチームと学習支援企画チームによるツール開発

学ボラ事業において、カコメンが単独で活動することが多いため、そのメンバーの能力によって、日々の活動の質が左右されてしまうという問題がありました。メンバーそれぞれの良さを発揮するとともに最低限の質を担保するためには学習支援の標準化を進める必要があると考え、学ボラ標準化プロジェクトチームを立ち上げました。2015年度は、学年別科目別テスト、事前質問票を作成しました。また、その子がどの単元のどの段階まで学習が到達しているのかを把握するシートも作成していきました。一方、スタサポ事業の日々の改善活動を行う学習支援企画チームでは、子どもたちに学習習慣を身に付ける、着実にできることを増やしてくために、数学を体系的に学習するテストを作成し、中学生を対象に最初の10分程度実施していくようにしました。2015年度は、学ボラ事業、スタサポ事業それぞれ分けてツール開発をしていきましたが、お互いに共通している部分が多いため、2016年度は学ボラ標準化プロジェクトチームと学習支援企画チームを学習支援標準化チームに一本化していきます。

カコタムメンバー向け研修

2014年10月より開始したメンバー向け研修を2015年度も実施しました。メンバー間のつながりを深めること、メンバー自身の振り返り、学習支援の質向上を図るために実施しています。前回実施後のアンケートでケーススタディが「良かった」、「もっとやりたい」という声があったため、今回はケーススタディを充実させた内容にしました。今まで活動していくなかで、課題としてあがっていたことについて、意見を出し合ったため、より実践的でかつ普段の活動につながるものになったのではないかと思います。

また、上記の他に児童養護施設や小学校で、虐待やいじめなどの暴力からこども自身が身を守る教育プログラムを実施している「北海道CAPをすすめる会」による、子どもとの関わり方についての研修を行いました。

北海道CAPをすすめる会による研修

カコタム研修

年間活動報告

１月　SEA国際教育研究所との英会話教室実施

３月　進学進級お祝い会実施
カコタイム　テーマ「こころ」
カコタイム　テーマ「自分を好きになろう」
民間と行政の連携を考える会において、活動発表
２０１４年活動報告会

４月　お仕事カコタム「化粧品販売員」

５月　SEA国際教育研究所との英会話教室実施
こどけん総会での活動発表
カコタイム　テーマ「勉強方法」

６月　北海学園大学　教職課程授業　講演
市民活動サポートセンター主催「つながるカフェ」講演

7月　カコタイム「自然体験学習」手稲さと川探検隊
大学カコタム「北大放射線科」
北海道教育大学札幌校　授業（2週連続）
奨学金調査チーム立上げ
児童養護施設　札幌育児園　活動開始
興正チャイルドホーム　活動再開
母子生活支援施設　すずらん　活動開始

8月　コープさっぽろ社会福祉基金　交流会参加
保護者向け奨学金説明会・相談会
手稲さと川探検隊コラボ企画「自然体験学習」実施
大学カコタム理系学部
夏期講習（3日間）
お仕事カコタム「札幌市立病院看護師・医療事務」
藤女子大学隈元ゼミ企画「カレーコンテスト」

9月　キャリア学習「プログラミング教室」
お仕事カコタム「ウェディングプランナー・カフェ店長」
カコタイム「少女マンガについて」
厚別高校放送局取材対応

10月　博多もつ鍋もつ将札幌手稲店とのコラボ企画実施
お仕事カコタム「後藤田医院看護師・医療事務」
メンバー向け研修（北海道CAPをすすめる会）
へるすたでぃ拠点ハロウィン企画
藤女子大学人間生活学部公開講座講演

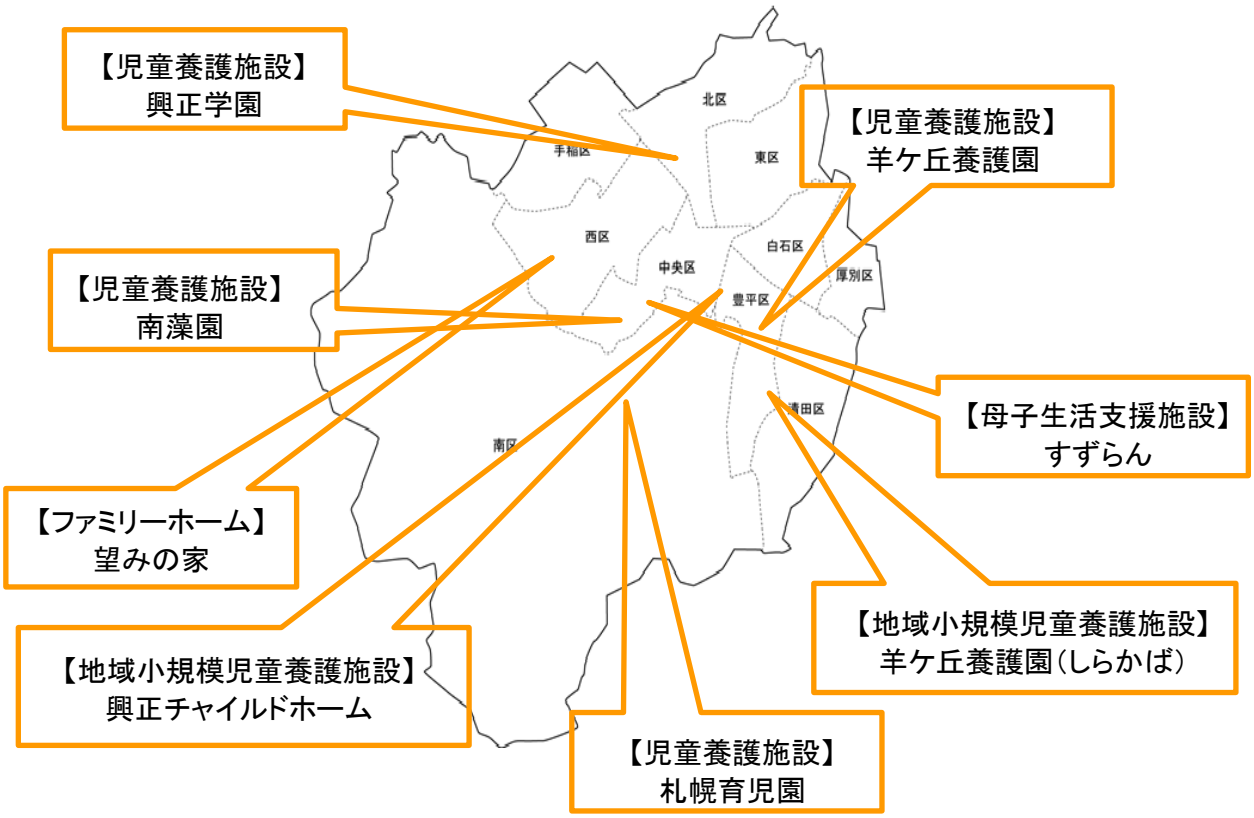
11月　カコタム苫小牧支部「L-base」活動開始
Kacotam活動説明会実施
北海道大学ボランティア相談室主催イベント講演
メンバー向けカコタム研修（2日間実施）

12月　コープ社会福祉基金主催「夢を応援する学習支援活動」講演
幸せのレシピ～スイート～とのコラボ企画実施
クリスマス会実施

児童福祉施設における子どもの学習支援事業（学ボラ事業）

2015年度概要

学ボラ事業では、2014年度同様に興正学園さん、羊ケ丘養護園さん、南藻園さん、望みの家さんで活動を継続しました。2015年度より今まで関わりのなかった児童養護施設札幌育児園さん、母子生活支援施設すずらんさんに伺うようになりました。母子生活支援施設すずらんさんの活動がスタートしたのは、テレビ局HBCの記者の方から紹介していただいたことがきっかけでした。それから毎週金曜日に高橋と、メンバー1人で伺うようになり、小学4年生～中学2年生の子どもたち9人を担当することになりました。皆明るく、おしゃべりをすることが多いですが、精神的に不安定な部分があるため、表情や言動に気を付けながら、関わっています。



各児童福祉施設の担当人数

	興正学園	羊ケ丘養護園	南藻園	望みの家	札幌育児園	すずらん	計
小学生	0	4	0	2	0	6	12
中学生	3	4	10	0	1	3	21
計	3	8	10	2	1	9	33

エピソード

興正チャイルドホームでは、2014年の3月に担当していたAちゃんが高校に合格したため、依頼終了となりましたが、今年7月頃に再度依頼があり、中学1年生のBちゃんを担当することになりました。Bちゃんは以前伺っていたメンバーとAちゃんとのやりとりを見ていて、「中学生になったら、学ボラに来てほしい」とずっと思っていたそうです。そして、2015年4月から中学生になり、念願だった学ボラメンバーとの勉強が8月よりスタートしました。そのように、今担当している子どもとの関りが他の子どもに伝わり、メンバーと一緒に学びたいという意欲につながる、そう実感するエピソードでした。

母子生活支援施設すずらんで関わっていた中学生Cちゃん、小学生D君が退所したため学ボラ事業としての関わりはなくなりました。しかし、スタサポ事業のエルプラザ拠点に家が近いこともあり、今はスタサポ事業のエルプラザ拠点に通っています。今まで、学ボラ事業とスタサポ事業は、つながることがありませんでしたが、今回のCちゃん、D君のケースによって、切れ目のない支援の実現につながりました。

各地域拠点における子どもの学習支援事業（スタサポ事業）

2015度概要

スタサポ事業では、2014年度同様に、エルプラザ拠点、こども學舎拠点、へるすたでぃ拠点、ねっこぼっこ拠点で活動を継続しました。参加総数は2014年度の1.1倍となりました。こども學舎拠点では、10月より、月2回から月3回に頻度を増やしました。それに伴い、子どもたちの参加率も高くなりました。また、へるすたでぃ拠点においても、土曜日月3回を増やし、午前部（10時～12時）、午後部（13時～15時）に分けて、実施するようになりました。このように頻度を増やしたことを通して、子どもの参加の定着を図るためには、①一定程度の頻度が必要なこと、②北区にはまだまだ需要があることが分かりました。

各拠点の子どもの参加総数

	エルプラザ		こども學舎		へるすたでぃ		ねっこぼっこのいえ		計	
	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期
1月	43	32	23	5	21	22	3	4	90	63
2月	67	47	20	17	28	22	6	5	121	91
3月	61	52	22	24	27	22	6	3	116	101
4月	52	52	8	21	52	25	11	0	123	98
5月	50	44	12	22	41	38	6	12	109	116
6月	53	40	15	24	47	43	10	11	125	118
7月	48	40	19	21	39	44	6	10	112	115
8月	48	80	19	21	31	55	8	9	106	165
9月	72	53	17	28	37	35	8	6	134	122
10月	58	52	31	22	49	26	4	4	142	104
11月	77	58	30	23	52	31	14	5	173	117
12月	83	51	34	22	51	26	5	7	173	106
計	712	601	250	250	475	389	87	76	1524	1316

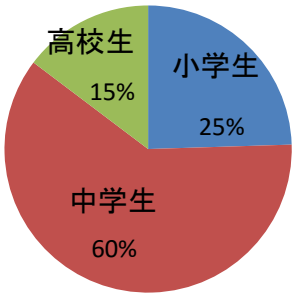
拠点別運営による独自性

拠点別運営を進めていくなかで、学習の雰囲気だけではなく、その拠点に来る子どもたちの年齢層や規模、資源によって拠点ごとに独自性が生まれてくるようになりました。エルプラザ拠点では、メンバーが得意とする分野や好きな分野について、子どもたちに話をするカコタイムが2ヶ月に1回継続して行われています。2015年度は「こころについて」「自分を好きになろう」「勉強方法について」「少女マンガについて」等がありました。こども學舎拠点では、お菓子タイムのときに余ったお菓子の争奪戦じゃんけんや風船で遊ぶことがあります。へるすたでぃ拠点では、ハロウィンパーティーが行われ、皆で仮装をして、藤女子大学隈元ゼミのメンバーが料理をたくさん作ってくれました。ねっこぼっこ拠点では、手作りのお菓子をいただいたり、学習終了後にボードゲームをして遊んだりして帰るのが恒例となりつつあります。

全拠点における子どもの学年別人数

拠点名	小学生	中学生	高校生	拠点別計
エルプラザ	10	24	11	45
こども學舎	5	13	2	20
へるすたでぃ	5	14	2	21
ねっこぼっこ	5	11	0	16
学年別計	25	62	15	102

※複数の拠点に参加している子どもが6人います



エピソード

2012年4月からスタサポ事業のエルプラザ拠点を開始し、その第一回目からずっと参加しているさきちゃん（現高校3年生）から、「今度はメンバーとしてカコタムに参加したい」と話がありました。前々から、たくさん荷物を持っているときや「どうしようか」と考えているときに、「ゆうちょ、大丈夫？何か手伝おうか？」と声をかけてくれて、色々と手伝ってくれていました。参加している子どもがカコタムを卒業して、今度はメンバーとして加わる。それはずっと設立当初から思い描いていた夢でもありました。8月頃に、さきちゃんからメンバーとして参加したいという申し出があったとき、嬉しい想いでいっぱいになりました。彼女の存在は、カコタムの存在意義であり、これから好循環を生む存在であると思っています。

カコタイム「少女マンガ」

こども學舎拠点学習風景

ハロウィンパーティー

L-base～学ぶ基地～（Kacotam苫小牧支部）

2015年11月より、苫小牧市の1ヵ所（ココトマ）で活動を開始しました。苫小牧市に住んでいるメンバー2人が地元でも活動をしたいということから実現しました。また、苫小牧南高校ボランティア局の学生やとまこまいフリースクール検討委員会の方々がメンバーとして参加しています。対象は小学4年生～中学3年生とし、経済的困窮世帯等の条件を設けずに実施しています。それは、①札幌市に比べて対象となる子どもの母数が少ないこと、②対象をしぼることによる参加しづらさを回避すること、③対象を絞って支援するのではなく、苫小牧市の地域の力全体の底上げを図る、ということから、条件を設けずに実施しています。現在月1回の頻度で行っていますが、4月以降月2回に増やし、本格的に活動を開始していきます。

子どもの参加総数

学年	11月	12月	1月	2月	学年計
小学生	4	4	2	2	12
中学生	4	1	0	3	8
月計	8	5	2	5	20

若者の学習支援事業（リラーニング事業）

2015年度概要

NPO法人リカバリーとの協働事業としては終了し、現在は個別に高卒認定試験の合格を目指す若者を対象に行っています。2015年度は1人の20代女性に対して、月２回～３回実施しました。Aさんの体調に合わせながら、数学、英語を中心に行いました。１１月の試験で支援は一旦終了し、今後必要があれば、その都度対応していくことになっています。

スクールサポート事業

2015年度概要

当年度からスクールサポート事業を開始しました。スクールサポート事業は、主に定時制高校の授業をサポートする事業です。現在大通高校のチャレンジベーシックという小中学生の範囲を学び直す授業に入り、教員をサポートしています。２５人ほどの生徒が各自進捗状況に合わせて、国、数、理、社、英のプリントを進めていき、解き終わったら、教員、私たちのところに持ってきて、丸つけをし、必要に応じて解説をしていきます。また、手が止まっている生徒がいれば、こちらから声をかけて、分からないところを解決していきます。

体験学習

料理教室（カレーコンテスト）

隈元ゼミのメンバーが「カレーコンテスト」を企画し、８月３０日に藤女子大学花川キャンパスで、実施しました。7人の子どもたちが参加し、グループに分かれて、キーマカレー、スープカレー、普通のカレーを選択し、各グループでつくり、「味」、「見た目」、「栄養バランス」の総合得点で競い合いました。

自然体験学習

手稲さと川探検隊という自然体験学習を子どもたちに提供しているNPOと協働で、スタサポ事業の全拠点の子どもたちを対象に、手稲区の川と山で自然体験学習を提供しました。子ども20人、メンバー18人で川に入り、川に住む生き物、カジカやウグイ、水カマキリ、カニ等たくさん捕まえて、いたるところから採ったよーという声が聞こえてきました。その後、捕まえた虫や魚等について、専門学校の先生が名前や特徴を解説してくれました。川の自然体験学習後、キャンプ場に行き、薪割からかまどづくり、バーベキューをしました。子どもたちは皆、様々な初体験をして、おなかいっぱいになって帰路につきました。

英会話教室

SEA国際教育研究所という海外留学の予備校と協力をして、英会話教室を実施しました。日本では普段、中学校、高校で学んでいる英語を実践する機会は少なく、英語を学ぶ意義も実感しにくいのが現状です。少しでもそういった実践、実感の機会をつくり、学ぶ意欲につなげていきたいという想いから、実施しました。

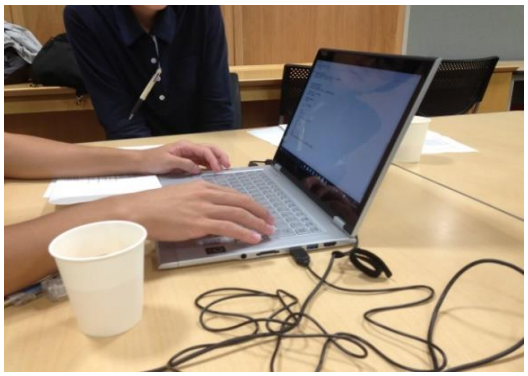
キャリア学習

お仕事カコタム

スタサポ事業で関わっている主に高校生を対象に、将来就きたい職業、興味のある職業に就いている社会人に話を聞きに行き、将来の職業について具体化、考えるきっかけをつくろうというものです。2015年度から開始し、「大手化粧品販売員」、「札幌市立病院の看護師、医療事務員」、「後藤田医院の看護師、医療事務員」、「ウェディングプランナー・カフェの店長」にお話を伺いました。ウェディングプランナーの経験をされている方に、話を聞きに行った高校生のAちゃんは、ウェディングプランナーという職業について聞くだけではなく、結婚、出産、子育て、働き方、仕事の位置づけに対しても考えさせられているようでした。最後に「カコタムで会いに行く人はみんな美人でしかもカッコいいですよね」と言っていました。そのように仕事の現場で社会人に話を聞くことを通して、就きたい職業や仕事観、ロールモデルを見つける機会になることが今後も期待されます。

プログラミング教室

スタサポ事業で関わっているA君は、進路選択で悩んでしました。将来ゲームプログラマになりたいという想いがありましたが、その理由は「ゲームをすることが好きだから」でした。ただ、「ゲームをすることが好き」と「ゲームをつくることが好き」は別物で、本人もそれを自覚しているからこそ、そのままプログラミンを学ぶ大学に進学して良いのだろうかと悩んでいました。そこで、「実際にプログラミングをやってみたらどうだろう？」と提案し、メンバーの力を借りて、プログラミング教室を実施しました。プログラミングの基礎知識を説明し、その後実際にじゃんけんをするゲームを作ってもらいました。終了後、プログラミングをすること自体も「楽しかった」と言っていて、プログラミングを学ぶ学部に進学することに意思を固めていました。



やりたい・得意をカタチにするプロジェクト

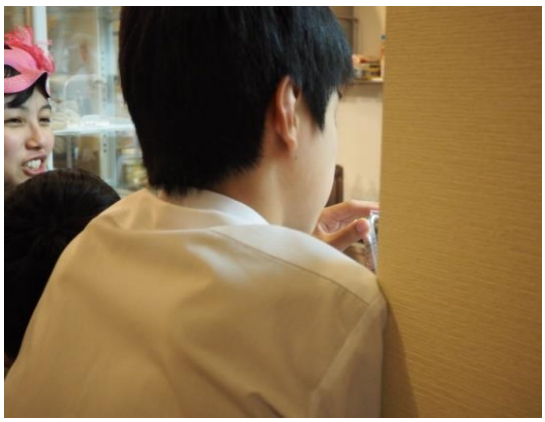
スタサポ事業において、普段子どもたちと関わっていくなかで、見えてきた「こんなことをやりたい」、「これが得意」というものをカタチにしていき、「もっとこんなことがやりたい」という気持ちや「自分はこれができるんだ」という自己効力感を感じられる機会をつくっていき、普段の学習意欲や自己肯定感につなげていきます。

メントスコーラ

へるすたでぃ拠点に参加しているB君、C君に、「何かやりたいことある？」と聞くと、「youtubeでよくやっているメントスコーラがやりたい」と返ってきました。「きりでメントスに穴をあけて、糸を通して…」と少し説明すると、あとは「俺がやる」と言って、何も言わずにどんどん自分たちで準備していき、500ミリリットルのコーラのときと、2リットルのコーラのときで、噴射の高さが異なるのか実験していきました。このように学習以外で何か意欲的に取り組める経験ができる場をつくっていきたいと考えています。

チョコレートケーキをつくる

活動のあるとき、姉弟で参加しているC君の姉が「こいつケーキつくってんだよ」というのを聞いて、C君に聞いたら、「まあつくるけど」と言っていました。ちょうど近い日程でハロウィンパーティーを実施することを予定していたため、参加者のためにケーキを作ってもらうことを提案すると、C君は「いいよ。」と快諾してくれました。パーティー当日、約20人分のチョコレートケーキを作ってくれて、「おいしい」と言うと、「当たり前じゃん。お金払え。」と嬉しそうに言っていました。



企業とのコラボ

博多もつ将札幌手稲店との企画

もつ鍋料理を提供している博多もつ将札幌手稲店さんのご協力により、無料で、もつ鍋料理を提供していただきました。こども・保護者20人、メンバー13人総勢33人が参加しました。今回の企画では、藤女子大学隈元ゼミのメンバーによる食育も合わせて行いました。

幸せのレシピ～スイート～、サッポロッカとの企画

パフェ専門店幸せのレシピスイートさんとサッポロッカさんのご協力により、メンバー5人、子ども9人総勢14人分のアイスを無料で提供していただきました。「ヨーグルト」、「ゆず」、「チョコレート」、「ほうじ茶」、「焼きなす」の5つの味のアイスがあり、その中から一番おいしかったアイスを投票してもらうと、その結果「ヨーグルト」が1位、最下位は「焼きなす」でした。また、アイスクリームをつくる機械の操作を子どもたち、メンバーともに体験をしました。

継続的な学習支援活動を行うための仕組みづくり

北海道キリンビバレッジ㈱さんのご協力により、カコタム寄付自動販売機を製作していただけることが決まりました。設置先が決まり次第、製作、設置となります。

2016年度の展開について

経済的基盤の構築

新拠点の開設、学習支援活動の充実等を図るためには、資金の安定的な確保が必要になります。安定的に資金を確保できるような仕組みづくりをより一層進めてまいりたいと考えています。その1つとして、2016年度はチャリティイベントの実施を検討しています。また、より多くの個人や企業から応援していただけるように、カコタムから子どもの現状や活動について積極的に発信していきます。

体験学習・キャリア学習（個別対応）の充実

普段の活動の中で見えてきた、子どもたちの悩みや不安を解決するような企画提案、「こんなことがやりたい」、「こんなことが得意」をカタチにしていく等、個別的な体験やキャリア学習を積極的に行っていきます。その過程で、他の分野への興味や学習意欲、将来の目標、見通しが持てるようなきっかけづくりをしていきます。

食事の提供を他拠点での実施

現在へるすたでぃ拠点において、食事の提供を行っています。子どもたちとメンバーが1つの食卓を囲むことによって、関係性が深まり、普段の活動の中でもそれが生きてきます。それは、分からないことを分からないと言えるようになる、困っていることをメンバーに話すようになる、学習内容が1人でできる作業から、メンバーと一緒に考える学習になる等様々なかたちとなって表れてきます。その効果をへるすたでぃ拠点で実感したため、調理場があるエルプラザ拠点においても実施しようと考えています。

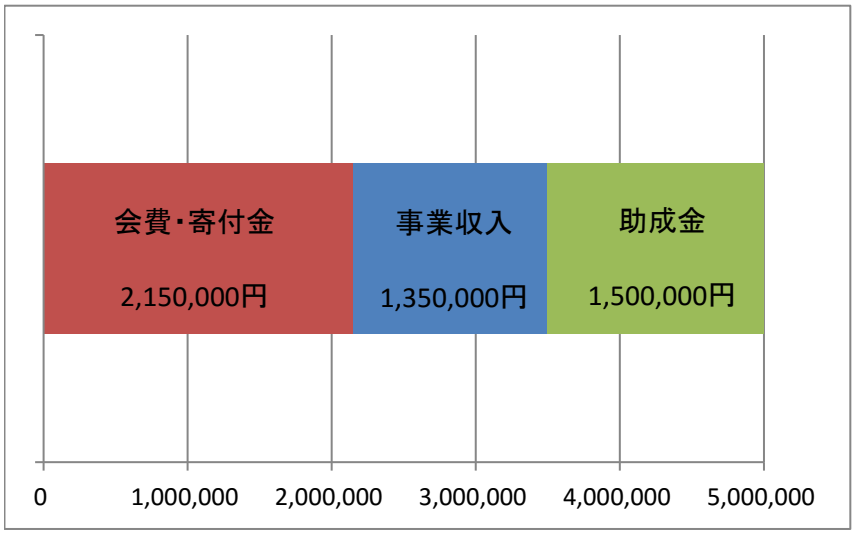
「いつでも来れる」拠点の設立を検討

今まで様々な子どもたちと関わっていく中で、経済的な困難だけではなく、不登校や親との関係性が良くない、家に居場所がない、病気など、複合的な問題を抱えている子どもたちが多くいることを実感しています。札幌市内には、フリースクールや不登校の子のための適応指導教室がありますが、経済的負担や場所が限られていることにより、経済的困窮家庭にとって、利用が難しい場合があります。また、親との関係性が良くない、家に落ち着ける空間が無い場合、「できるだけ、家にいたくないから少しでも長くここにいたい」という子が少なくありません。そのため、他団体の場所を一定時間お借りするのではなく、一軒家を借り、いつでも子どもたちが来ることができるような場を2年以内に作りたいと考えています。

2016年度の目標金額

既存拠点における学習支援の継続、体験学習・キャリア学習の充実、新たな活動拠点を構築するために、目標金額を5,000,000円と設定しました。多くの子どもたちと関わっていくなかで、今まで見えてことなかった子どもたちの新たな課題、ニーズが表出してきます。既存の活動に満足せずに、新たに出てきた課題・ニーズに対応すべく、これからも活動に邁進して参ります。今後とも応援の程、宜しくお願い致します。

目標金額：5,000,000円



【用途】	
人件費等	2,462,000
交通費	1,280,000
学ボラ：360,000	
スタサポ：920,000	
賃借料	300,000
（事務所スペース、ロッカー代）	
消耗品費	330,000
（A4用紙、インク、お茶代他）	
食材費	360,000
広告宣伝費	100,000
教材費	50,000
通信費	30,000
その他	88,000
計	5,000,000

※交通費、食材費、その他以外の費用は全事業共通です

団体概要

名前の由来
子どもたちには「自ら考えて行動すること」、「自ら考えて行動することを楽しむこと」ができるように、
なってもらいたいと思い、
考える　…「か」
行動する　…「こ」
楽しむ　…「たむ」
を合わせて、「かこたむ」としました。

団体名
特定非営利活動法人Kacotam

設立
2014年3月4日（2012年1月任意団体設立）

役員
理事長　　高橋　勇造
理事　　隈元　晴子
理事　　平井　照枝
監事　　高橋　博光

顧問
元札幌市立陵北中学校校長
元中学校校長会会長　　里谷 彰

メンバー
学生　　65 人
社会人　　33 人
計　　98 人
※2016年2月26日現在

協力団体・会員のみなさま

【カコタムメイト・賛助サポーター企業】

【資金確保の仕組みづくり協賛企業】

【学習支援運営支援】

【カコタムメイト・賛助サポーターの方々】

カコタムメイト	17 人
賛助サポーター	10 人

計 865,263円

特定非営利活動法人Kacotam
札幌市北区北8条西3丁目エルプラザ市民活動サポートセンターブース内
TEL : 070-5283-9501
Mail : info@kacotam.com
URL : http://www.kacotam.com/
Facebook : https://www.facebook.com/kacotamsince2012